

E—5 福島地方における幼児の実態（第二報） 体位と体力について

福島大教育 辻 英子

1. 青少年の体位向上の過速化現象に対して体力が伴わないことが最近問題視されているが、幼児については体位のみが云々されていることが多いように思われる。そこで当地方幼児の体力の実態を把握し、体位との関係を明かにして幼児保育の手がかりとすることを目的とした。

2. 福島市内と近郊町村の翌春就学保育所幼児88名を対象とし、昭和40年5月定期身体検査時に体位を測定し、体力は同年5月以降6月までの間に児童母性研究会案により測定を試みた。

なお、事前に対象幼児の精神発達検査を実施し、食事に関するアンケート等も求めて、対象二保育所幼児の精神発達および食生活の状況がほぼ平均、等質的であることを確かめた。

3. 体位については全国標準にくらべ、また平田式の相対的体格点によっても極めて良好なことが明かであるが、体力については児童母性研究会の成績に比し劣る項目が多く、体位のような優位はみられなかった。また、身長、体重と体力測定項目との間には高い相関を示すものではなく、体位総合と体力総合（6種の運動項目）間にも相関はなく、対象幼児に表われた限りでは体位と運動能力との関係はあまりなく、体力（運動能力）を左右する要因として、環境や練習効果が大きいように思われた。